

## 弟が生まれた日

「おぎゃあ。」

生まれたばかりのぼくの弟が、元気な声でなきました。

夕方、お母さんが、

「おなかがいたい。」

と言ったので、いそいでじゅんびをして、びょういんへ行きました。いつもは、明るくて元気なお母さんが、今日はとてもくるしそうでした。

「お母さん、だいじょうぶ。」

ときくと、

「少しいたいけど、だいじょうぶだよ。」

と答えました。しかし、お母さんのこんなにくるしそうなかおを見るのは、はじめてだったので、とてもしんぱいでした。

びょういんにつき、ぼくたちは、お母さんとちがうへやで、赤ちゃんが生まれるのを

まつことにしました。ぼくはこころの中で、

「まだかな、まだかな。」

とずっと思っていました。だから、まっている時間がとてもながくかんじられました。すると、

「リリーン。」

と電話がなり、もうすぐ赤ちゃんが生まれるというれんらくがきました。ぼくたちは、いそいでお母さんがいるへやへ行きました。先生が、

「もうすぐ生まれるからね。」

とおしえてくれました。それからやく八分後、

「おぎゃあ。」

という元気な声が聞こえました。ぼくは思わず、

「やったあ、生まれた。」

と大きな声でさけび、そのばで、とびはねてよろこびました。ぼくにとって、はじめての弟だったので、うれしくて、うれしくてたまりませんでした。

弟おとうとが生まれたへやで、お母かあさんと弟おとうとのようすを見ると、弟おとうとのへそがお母かあさんとながっていました。するとお父とうさんが、

「みんなで、おへそを切るよ。」

と言いいました。ぼくは、びっくりしました。

「いたくないのかな。」

と思おもいました。でも、みんなで切きるというので、ぼくも弟おとうとのへそを切きることにしました。へそを切きった後あと、弟おとうとは、しん長ちようや体たいじゆうをはかるためにべつのへやへ行いきました。その間あひだぼくは、自分じぶんのへそをそっと見みてみました。そして、

「ぼくも、生うまれたときは、お母かあさんとながっていたんだなあ。」  
と思おもいました。

弟おとうとが、かえってきてから、しゃしんをとったり、だっこをしたりしました。とても小さくてかわいかったです。ぼくは、いつまでも弟おとうとを見みていたかったです。お父とうさんといっしょにかえることになりました。

「お母かあさん、またあしたくるからね。」  
と言いいました。

「ぼくの弟おとうと、またあした、お兄にいちゃんくるからね。」  
とこころの中なかで言いいました。



家いえにつき、ふとんの中なかで、

「お母かあさん、元げん気きになってよかったな。赤あかちゃん元げん気きに生うまれてよかったな。」

と思おもいました。そして、

「きょうからぼくに弟おとうとができたんだ。」

そう考かんえると、うれしくて、なかなかねることができませんでした。

「お母かあさんと弟おとうと、早はやく家いえにかえってこないかな。」

平成十九年度『全国児童才能開発コンテスト』入賞作品